

創設130周年に向け、地域市民と共に今動き出す

# 大牟田天領病院だより vol.1



熊本大学名誉教授  
社会保険大牟田天領病院  
病院長 興梠 博次 (こうろぎ ひろつぐ)

## 【創設130周年記念への想い】

大牟田天領病院は、明治22年に三井鉱山の事業所病院として創設され128年を経て現在に至っています。皆様には、今でも三井病院と呼ばれることがあります。これだけの伝統を持つ病院は全国でも稀な存在です。この伝統を守るには、社会の求めに応じた貢献をすることが必要です。大牟田天領病院は、創設130周年記念事業に向けて、本院の理念である「患者中心の医療、医療の質の向上、地域と一体となった手づくりの医療、安全と信頼の得られる医療、そして人の尊厳の厳守」を再確認して実践し、地域社会と一体となった診療に努めます。さらに、創設150年、200年を目指して病院を進化させて最高の医療を皆様に提供し、安心、信頼、希望が寄与できる病院に致します。



## 【第27回 国際喘息学会日本・北アジア部会】を語る

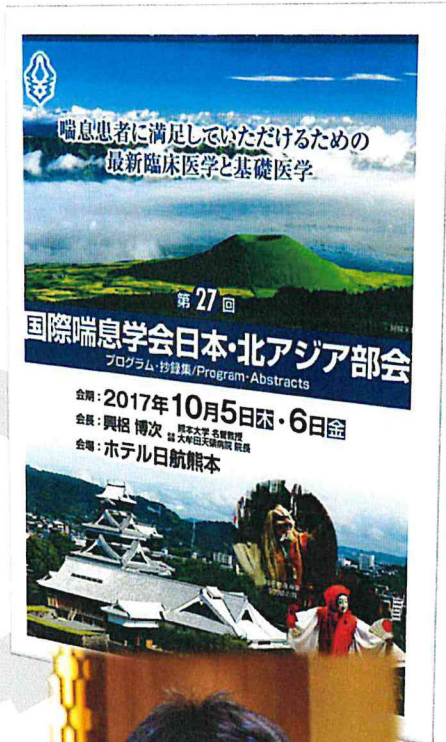
Q1(Dr廣佐古) 学会は盛大に催されましたが、会長として多くの責務を果たされた心境はいかがですか。  
A1(院長) 学会の開催には、喘息の専門医師、薬剤師、看護師が集まっていただき、イギリス、香港、韓国からも参加を頂きました。喘息の診断、治療、基礎研究をバランスよく発表できる環境を準備し、九州の魅力を理解して頂くために手づくりのおもてなしを心がけました。海外からの演者とも高度な学術交流ができました。参加者には高い評価をいただき大変うれしく思っています。

Q2(Dr廣佐古) 学会のテーマである「喘息患者に満足していただける～」は院長らしい言葉ですね。込められた思いをお聞かせください。  
A2(院長) 医療の原点は、患者様の病気を改善させ治療させることです。医学研究では、診断と治療からかけ離れすぎるものもあります。この学会では、その原点を忘れること無く、研究が診療に役立つことを目指すテーマにしました。喘息は薬を自分で吸入することにより薬の効果を最大にして副作用を最小にする治療が主流となっています。今回の学会では、医療スタッフが上手に患者指導をする実践セミナーを開催し、初めての試みとして高い評価をいただきました。大牟田天領病院では、最も効果的な吸入指導を致します。

Q3(Dr廣佐古) 参加者の懇親会では、院長の故郷である高千穂の「夜神楽」が披露されました。どのように感じられましたか。最後にお聞かせ下さい。  
A3(院長) 九州の中心の高千穂は、神の都とも呼ばれ、高千穂峡でも有名です。私の故郷でもあります。子供の時から夜神楽の太鼓のリズムが大好きで舞えばらしく、何故このような芸術が山の中の高千穂に存在するのか不思議でした。今回、学会のエキシビジョンにてこの夜神楽を日本の古い文化として鑑賞していただきました。海外からの演者にも高い評価を受け大変うれしく思っています。人間と自然がすべて神楽ですので、世界中の誰もが楽しいのかもしれない。子供のころを思い出して涙がでました。



海外からの演者と



社会保険大牟田天領病院  
呼吸器科 部長  
廣佐古 進 (ひろさこ すずむ)



夜神楽の舞

## 告知 【院長外来のお知らせ】

私は、本年3月まで熊本大学呼吸器内科の教授を担当していました。呼吸器内科が専門ですが、内科全般、循環器(心臓)、消化器、神経(脳卒中等)、集中治療(重症患者の治療)、救急医療も修練してきました。医師経験40年を過ぎましたが、いまだに学ぶばかりです。病院では、呼吸困難、咳、痰、喘息、たばこ肺(タバコによる慢性閉塞性肺疾患)、咳、肺癌、肺炎、等、呼吸器内科は何でも診療致します。救急外来にも時間がある限り参加して若手医師とともに診療しています。一流の診療を提供致しますので遠慮なく受診して下さい。定期の外来診療は月曜日と水曜日の午前です。

